

講習内容

「教育の動向と子ども理解の現状」(必修) 認定職種:全職種

1. 教職についての省察、2. 子どもの変化についての理解、3. 教育政策の動向についての理解、4. 学校の内外における連携協力についての理解、の4つのテーマに関し、事実に基づきながら現況を把握し、それらの背景となっている現代社会の特徴を明るみに出しながらか理解を深める。また、このような理解の基礎の上に、個々の教員が現状に対し適切かつ創造的に対応できるような方法の理解・技能の修得を目指す。以上を講義によって行う。

《講師》 大沼 徹(教授)、磯村 陸子(教授)

《期日》 8月5日(月)または 8月6日(火) 《講習時間》 6時間

「教育相談と子どもの教育」(選択必修) 認定職種:全職種

主に「不登校」「いじめ」に焦点を当て、教育相談の実際について概説する。そのなかで、教育相談が効果的であるための教師とスクールカウンセラーとの協力関係、また対症療法的な対応だけでなく、「不登校」「いじめ」を起りつづらくするように、全生徒を対象として行う予防的な教育について、ポジティブ心理学の立場から最新の知見について講義する。

《講師》 新井 敬枝(非常勤講師)、鈴木 水季(非常勤講師)

《期日》 8月5日(月)または 8月6日(火) 《講習時間》 6時間

「学校(幼児教育)を巡る状況変化と教育政策の動向」(選択必修) 認定職種:全職種 主な対象者:幼稚園教諭

幼児教育に焦点を合わせ、保護者の意識・家庭教育等の学校を巡る状況変化について明らかにし、これらを踏まえて近年また近未来の教育政策の動向について、法令改正及び国の審議会の状況に関する視点から最新の情報に基づき概説する。特に、法令改正・改定についてはその精神を明らかにし、現代に生きる子どもたちが豊かに学ぶために現場の具体的な対応が創造的本質的なものとなり、改正・改定が最大限の効果を発揮するものとなることを目指す。

《講師》 中島 千恵子(教授)、上村 麻耶(准教授)

《期日》 8月5日(月) 《講習時間》 6時間

「教育政策の最新動向」(選択必修) 認定職種:全職種 主な対象者:小・中・高等学校教諭

近年また近未来の教育政策の動向について、法令改正及び国の審議会の状況および学習指導要領の改訂の動向の観点から、最新の情報に基づき概説する。学習指導要領については、まず一般論、その後で近年問題になっている学力の2極化に陥らないためにその精神をどのように解釈し実践すれば良いのか、算数科・数学科、小学校から高校までの連携を例にして考える。これらは、他の教科にも通じるものであり、現代に生きる子どもたちが豊かに学ぶために現場の具体的な対応が創造的本質的なものとなることを目指すものである。

《講師》 小池 公夫(非常勤講師)、八木 陽(非常勤講師)

《期日》 8月6日(火) 《講習時間》 6時間

「家庭・地域における教育の支援と子ども理解」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園教諭

幼稚園の果たすべき役割として、新たに家庭及び地域における幼児期の教育支援が加えられた。この支援に係る最新の知識・理解について、4つの観点から講義する。①障害のある子どものケアの問題をバリアフリーという観点から考察し、障害とバリアフリーの関連を明らかにする。②離婚家庭の子どもに特有の問題を示し、必要な援助を具体的に考究する。③乳幼児期の遊び・対人関係を概観し、家庭への要望と援助について考える。④保育をめぐる制度・施策が変化著しい近年、子どもの育ちを支える主体と、期待される連携について検討する。

《講師》 柏木 恭典(准教授)、波多野 名奈(准教授)

《期日》 8月7日(水) 《講習時間》 6時間

「アクティブ・ラーニングはアクティブ・ティーチングによって生まれる」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:小・中・高等学校教諭

「学ぶ」というとなみは、本能的に能動性をはらんでいとなまれる。「知識の一方的な伝達」を超える「教える」があって、アクティブ・ラーニングに実が結ばれる。グループワークといった学習形態を導入すれば、学びの質が能動的に高まるものではない。本講習では、当今のアクティブ・ラーニングという課題に、国語・社会・総合等での具体的な事例に即し、また実際にミニ授業を体験することによって向き合い、思索を深める。

《講師》 佐久間 勝彦(本学学長・特任教授)

《ゲストスピーカー》 綿引 弘文(元 水戸市立渡里小学校教諭)

《期日》 8月7日(水) 《講習時間》 6時間

「創造力を育む造形教材の研究と開発」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園・小学校教諭

文部科学省より《特色ある大学教育支援プログラム》として選定された「こども造形教室」にて新しく開発した造形題材を中心に、学習指導に直結する教材研究・開発のあり方について実技演習を通し深める。内容は、幼児・児童が個々の造形の力を発揮して楽しく活動できるよう、1)季節感、2)伝承的な造形、3)構成的・機構的な面白さ、4)材料の可能性の追求などに留意して、主として工作表現分野の独自な題材で構成していく。

《講師》 三好 理夫(非常勤講師)、篠田 哲也(非常勤講師)

《期日》 8月7日(水) 《講習時間》 6時間

「リトミック指導法の基礎」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園・小学校教諭

音楽の基本能力を伸ばすとともに知的なものも含め幅広く豊かな人間性の基礎を育むリトミックについて、その原理や基本について理論的に理解を深め、またその初歩を体験する。そして、幼児教育における表現領域の学習活動に取り入れることが可能となるように、実践的に学ぶ。(講義・演習・実技)

《講師》 太田 有紀子(非常勤講師) 《ゲストスピーカー》 杉本 明(リトミック研究センター理事)

《期日》 8月7日(水) 《講習時間》 6時間

「子どもの感性を引き出す造形教育」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園・小学校教諭

目に見える成果物(作品美)を求めるだけではなく、子どもの感性や想像力を働かせて「新たな意味」や「価値」を育成する造形教育の魅力味わう講習。ワークショップ的な体験型造形学習を通し、「感動」「おどろき」を素直に伝えることができる指導者の資質を高めることをねらいとする。

・制作予定:オリジナルビルダーカード・新聞紙でワークショップ・粘土で遊ぶなど。

《講師》 田村 俊雄(教授)

《期日》 8月8日(木) 《講習時間》 6時間

「子どもへの対応力を身につける体験学習」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:小・中・高等学校教諭

授業の中で子どもたちの意欲を引き出し、その教材の中心を逸れずにその時間のめあてを達成するためには、子どもの疑問・考え・つぶやき・意見への「対応力」が必要となる。この「対応力」を、①「対応の理論」と②「演習」を通して身につける。そのための(1)教材解釈の仕方、(2)問いと発問の展開方法、(3)子どもたち意見への解釈力、(4)授業展開の構想、(5)子どもの開放場所、といった授業を構成していく要素について考えを深め、授業への「対応力」を身につける。

《講師》 塚本 幸男(非常勤講師)

《期日》 8月8日(木) 《講習時間》 6時間

「絵本の読み伝えと活用法」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園教諭

絵本の読み伝えは、幼稚園教育において欠かすことのできない教育内容のひとつである。しかし、教師の扱い方ひとつで、楽しく充実した内容にもなれば、「つまらない絵本だった」で終わることもある。本講座では、効果的な活用法を中心に、子どもたちの学びがより一層深まるような実践のあり方を考えていく。また、童話作家によるお話作りのノウハウを伝授する。

《講師》 横山 洋子(教授)、わたなべ めぐみ(非常勤講師)

《期日》 8月8日(木) 《講習時間》 6時間

「食育の現代的課題と実践」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園教諭

4つのテーマで食育について現代の観点から考察する(講義)。①子どもたちの食生活の現状を捉え、健全で豊かな食生活のための食育活動を考える。その一環として、②幼児の野菜培、収穫の喜び体験を通して、食への関心を高める実践を考える。また、③現代の子ども食スタイルと行動の実態を把握し、主体的に楽しく取り組める食事マナーについて考え、最後に、④大型絵本やエプロンシアター等の視覚的教材を使って楽しく子どもたちに伝える方法や、食への関心を深める遊びについて考える。

《講師》 中島 千恵子(教授)、横山 洋子(教授)

《期日》 8月9日(金) 《講習時間》 6時間

「ピアノ簡易奏法ーピアノの苦手な先生のために」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:幼稚園教諭

ピアノに対する苦手意識は、教諭の音楽指導に消極的な態度を醸成してしまう。本講習においては、電子ピアノを一人に一台配し、純粹な演奏法ではなく、ピアノを音楽指導に役立てるツールとして、小学校の共通教材や幼児向け歌曲を簡易に奏する技術と編曲法を学ぶ。楽譜通りに弾くのではなく、教諭の資質に応じて楽譜内容を簡易化し、ピアノという便利な楽器を音楽指導に活用できるようにすることが目的である。

《講師》 高木 誠(教授)

《期日》 8月9日(金) 《講習時間》 6時間

「現代に生きる斎藤喜博教授学」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:小・中(国・数・理)・高等(国・数・理)学校教諭

新学習指導要領の主体的・対話的で深い学びを、如何にして具体的に推し進めるかが問題である。これはすでに昭和30年代40年代の斎藤喜博の実践の中にある。本講習ではこの観点から、日々の授業の中でいかに子どもたちを分裂させることなく統合的に成長させていくか、これまでの研究の成果を活かし概説する。そして、その基盤にある教材解釈を国語・算数を例として模擬授業も含めて体験してもらい、理科については実践記録から学んでいく。

《講師》 大沼 徹(教授) 《ゲストスピーカー》 綿引 弘文(前 水戸市立渡里小学校教諭)

《期日》 8月9日(金) 《講習時間》 6時間

「小学校国語科における古典教育とその周辺」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:小学校教諭

小学校国語科における「伝統的言語文化の教育」の導入に鑑み、小学校教育における「古典」の取り扱いについて検討する。小学校教員の科目の専門性は多様であることをふまえ、古典という概念、古典教育の歴史的課題といった基底となる事項から、言語文化、教材研究などの面まで多面的に問題をとらえていきたい。

《講師》 高野 浩(准教授)、栗山 元子(非常勤講師)

《期日》 8月10日(土) 《講習時間》 6時間

「子どもの可能性を解放する総合表現指導法」(選択) 認定職種:教諭 主な対象者:小・中(音・体・総合学習・特活)・高等(音・体・総合学習・特活)

オペレッタを基盤とした総合表現は、斎藤喜博の開発した独特の表現教育活動である。これは単に表現の技術向上を目指すものでなく、子どもの全体存在における可能性の解放を目指すもので、様々な教育的効果が期待できるものである。本講習では、この表現活動の教育的意義及び指導の要点の概説、成果の提示、及び総合表現「利根川」を教材としこれを体験しながらその指導法の初歩を学ぶ。

《講師》 小池 順子(千葉経済大学教授) 《ゲストスピーカー》 磯前 利行(石岡市立恋瀬小学校校長)

《期日》 8月10日(土) 《講習時間》 6時間